



職業系高校生訪韓団 派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】農業を専攻する高校生等 46 名が、11 月 19 日～25 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の基盤強化に寄与することを主目的として訪韓しました。一行はソウル特別市、京畿道水原市・坡州市・高陽市を訪問し、各種視察、関連講義聴講、関係者との懇談等を通じて、韓国に対する理解を深めるとともに、日本の魅力やプログラム中の学び等について SNS 等で発信しました。

【参加者】高校生等 合計 46 名

【訪問地】ソウル特別市、京畿道水原市・坡州市・高陽市 合計 46 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

10 月 25 日（土曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

■ 派遣プログラム：

11 月 19 日（水）仁川国際空港より入国、歓迎式及びオリエンテーション

11 月 20 日（木）【学校訪問・交流】水原農生命科学高等学校（コース別見学）

【視察】華城行宮周辺

【視察】韓国の消費文化視察（ロッテマート）

11 月 21 日（金）【学校訪問・交流】水原農生命科学高等学校（訪問校生徒とプロジェクト活動・発表）
ホームステイ対面式

11 月 22 日（土）ホームステイ解散式

【視察】ソウル農業博物館

【文化体験】ワールド K-POP センター

【視察】南山ソウルタワー

11 月 23 日（日）【視察】非武装地帯（DMZ）

【企業訪問・視察】現代モータースタジオ高陽

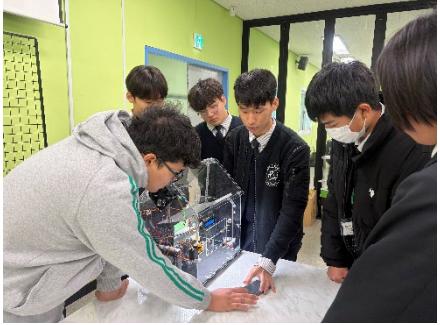
【視察】明洞（グループ毎にフィールドワーク）

11 月 24 日（月）【視察】景福宮（韓服体験含む）

【講義・文化体験】ハングルカリグラフィー講義及び体験、成果報告会

11 月 25 日（火）仁川国際空港から出国

2. 記録写真

	
<p>11月20日【学校訪問・交流】水原農生命科学高等学校（スマートファームを設計する様子）</p>	<p>11月21日【学校訪問・交流】水原農生命科学高等学校（グループ発表をする様子）</p>
	
<p>11月21日【交流】ホームステイの様子</p>	<p>11月22日【テーマ視察】ソウル農業博物館</p>
	
<p>11月23日【視察】非武装地帯（DMZ）</p>	<p>11月23日【視察】現代モータースタジオ高陽</p>
	
<p>11月24日【視察・交流】景福宮（ボランティアガイドと共に）</p>	<p>11月24日 成果報告会</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 高校生

訪韓団に参加したことで、旅行ではなかなか体験することのできない「韓国の農業」に触れることがで
きてよかったです。また韓国の高校を訪問し、異なる環境の学校生活を体験できたことも、私にとっては
とても新しい体験になりました。韓国の方たちは、みんなフレンドリーでとても接しやすかったです。

◆ 日本 高校生

旅行で行つただけでは分からないところも、ホームステイを通じ韓国の家庭に泊まれたことによって、
どんな構造の家・環境で暮らしているのかを知り、日本との文化の違いについて知ることができました。
また1泊2日と短い時間でしたが、一緒に過ごす中で、どうして韓国には人柄の良い方が多いのか、分か
ったような気がしました。

◆ 日本 高校生

韓国には日本語を話せる人が多くて驚きました。言語が通じない時でも、私が言いたいことを一生懸命
汲み取ろうとしてくれて嬉しかったです。皆さん優しくて温かく、たくさんの友達をつくることができ
ました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 水原農生命科学高校関係者

本校を訪問いただき、ありがとうございました。今回の交流を通じ、お互いの文化と教育システムを
知る、有意義な機会を持つことができました。教育を通じて未来を担う主役たちを育てることは、私た
ちの重要な使命です。このような交流機会を増やすことで、両国の高校生交流がより活性化し、より良
い協力関係に発展してくれたらと思います。

◆ 水原農生命科学高校学生

日本の生徒たちと協力しながらプロジェクトを進めましたが、お互いにアイディアを出したり、出た意
見を調整するなかで「協力すること」の重要性を改めて感じました。また今回の交流を通じ、新しい日本
の文化に触れることができましたし、互いの文化を理解し尊重することがどれほど重要かを知りました。
これからもこのような交流事業に参加し、両国への理解を深めたいです。

◆ ホームステイ受け入れ家庭

1泊2日という短い時間でしたが、年齢層の近い子供もいたせいか、とても楽しく過ごすことができ
ました。また、私が作った韓国料理もおいしそうに食べてくれ、嬉しかったです、次回もまたこのよう
な機会がありましたら、積極的に参加したいと思います。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

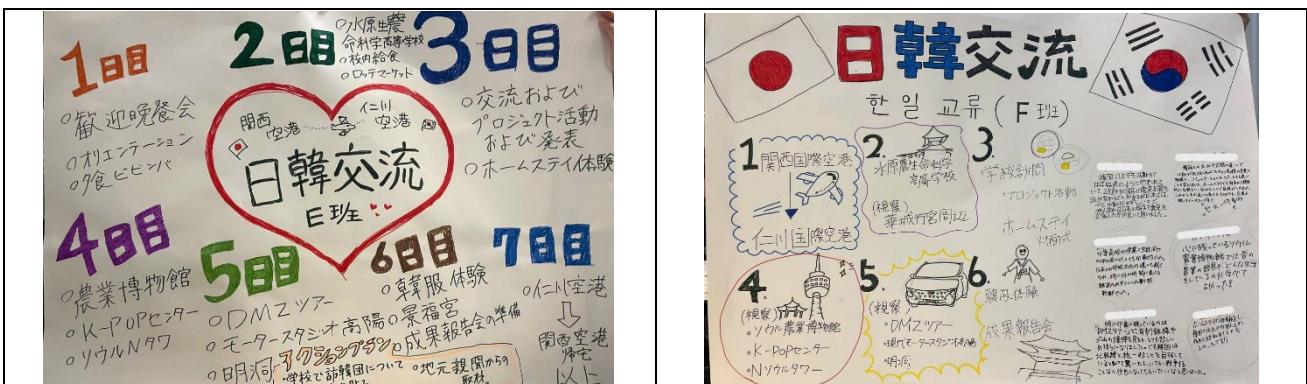
 <p>2日目は水原市にある水原農生命科学高等学校を訪問し、交流を行いました。校内見学をしながら学校の案内を受けましたが、日本よりもAIを活用しているように感じました。私は選択プログラムのうち、韓国餅づくりを選択し、多種多様な韓国のお餅について学びました。</p>	 <p>ホームステイを行いました！ホストファミリーの皆さんと過ごすことができました。夕食・朝食両方とも、とても美味しいです。夜にはロッテタワーなど、様々な場所に連れて行ってくれました。</p>
 <p>午前中はDMZに行って北朝鮮と韓国の歴史を学びました。北朝鮮が見える展望台に行く道中にも、もしもの時に備え、車のタイヤをパンクさせたり通行の妨げとなるような仕掛けや、至る所に張り巡らされた有刺鉄線等を目の当たりにしました。資料館での説明を聞き、とても悲しい気持ちになりましたが、韓国はいつか北朝鮮と統一することを目指していると知った驚いた。◎1~9枚目、車の博物館に行って車が造られる様子や未来の車について学んだ。韓国</p>	 <p>南部高生40人が韓国訪問 現地の高校生と一緒に実習</p>
<p>午前中はDMZに行き、北朝鮮と韓国の歴史を学びました。北朝鮮が見える展望台に行く道中にも、もしもの時に備え、車のタイヤをパンクさせたり通行の妨げとなるような仕掛けや、至る所に張り巡らされた有刺鉄線等を目の当たりにしました。資料館での説明を聞き、とても悲しい気持ちになりましたが、韓国はいつか北朝鮮と統一することを目指していると知った驚いた。◎1~9枚目、車の博物館に行って車が造られる様子や未来の車について学んだ。韓国</p>	<p>みなべ町芝、南部高校食と農業科の1~3年生40名が「職業系高校生訪韓団」として19~25日の1週間、韓国を訪ねた。韓国の高校で一緒に体験実習をしたり、ホームステイ先の家庭で交流を深めたりした。</p> <p>公益財団法人「日韓文化交流基金」(日本側)と韓国国立国際教育院(韓国側)による取り組みで、日</p>

とを目指していると知り驚きました。(中略) 車の博物館に行って車が造られる様子や未来の車について学びました。韓国は二酸化炭素を出さない車の研究を進めており、実際に未来の車に乗る体験もしました。

韓両国の高校生同士の相互理解や信頼関係を深めることが目的。

現地では「水原(スウォン)農生命科学高校」(京畿道水原市)を訪問。花きや造園、愛犬訓練、韓国餅作り、バリスタ、調理、スマートファームの7コースに分かれ、同行の生徒とともにプリザーブドフラワーを作ったり、犬のしつけを学んで実践したり、韓国の伝統的な餅「ソンピョン」と茶菓子「ダシク」や、韓国料理と日本料理を合わせた創作料理を作ったりした。

6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表(概要または抜粋を記載する)



【成果の発表】

- スマートファーム環境を整備する中で、たくさんの失敗がありましたが、完成した時に韓国の生徒と喜びを分かち合い、短い時間でしたが一緒に学ぶことができました。
- ソウル農業博物館の訪問において、それまでは知らなかった韓国の昔の農業器具や生活様式について、知識を深めることができました。
- 韓国との文化や言語の違いで心配な部分がありました。しかし、水原農生命科学高等学校の生徒たちと一緒に勉強し、コミュニケーションを取ることの重要性を学びました。ホームステイでも自分から積極的に会話をし、伝わったことが自信につながりました。これからもお互いの良さを大切にし、交流を続けていきたいです。

【アクション・プラン】

- スマートファームプロジェクトで植えたレタスの成長について、継続して連絡を取っている韓国

【成果の発表】

- 学校訪問において、スマートファームで栽培したレタスと私たちの地域の特産品である南高梅でサンドイッチを作るプロジェクト計画しましたが、その作業を通じて農業が単純に食べ物を生産することを越え、お互いを知ることのきっかけになるということを学びました。
- 初めての海外で韓国を訪問しましたが、韓国の皆さんとの温かさを感じることができ、もっと韓国を知りたくなりました。
- 韓国ではほぼ毎日のように街中でデモ活動が行われていることを知りました。このような活動が活発に行われている理由としては、韓国政府が国民の声を聞き法律を変えた経験があるからと聞きました。私たちも18歳になったら選挙権を持つため、もっと政治に関心を持ちたいと思いました。

【アクション・プラン】

- 韓国で学んだ歴史や食文化について復習し、友

の生徒から教えてもらい交流を深めます。 ・学校の友人や家族に韓国の良さを紹介します。 ・地元の新聞に寄稿し、取材を受けます。 ・訪韓団について模造紙にまとめ、学校内に掲示します。	達に伝えます。 ・韓国のポスターを作成して学校内に掲示します。 ・韓国で仲良くなった生徒と共に、日本と韓国の良いところを報告し合います。
--	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金